

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間: 2024年4月～2025年3月



発行日 2025年 9月 1日
作成者 飯塚 宣人

目次

表紙	P1
目次	P2
Ⅰ. 会社概要・事業内容	P3
Ⅱ. 環境経営方針	P4
Ⅲ. 環境経営活動実施体制	P5
Ⅳ. 環境経営目標	P6
Ⅴ. 実績	P7 ～
Ⅵ. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P12 ～
Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P14
Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果	P15

I. 会社概要・事業内容

(1) 事業者名及び代表者名

日本包装システム 株式会社

代表取締役社長 池畠 正英

(2) 所在地

本社工場 〒379-2153 群馬県 前橋市 上大島町 182

共同工場 〒379-2154 群馬県 前橋市 天川大島町 1310-4

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者： 管理部 飯塚 宣人

EA-21事務局： 管理部 小宮 由香利

連絡先 TEL： 027-261-4455

FAX： 027-261-4456

E-mail： n.iiduka@nhs-1972.co.jp

(4) 事業活動の内容

紙製容器・包装資材の開発、製造および販売

(5) 事業規模 (2024年度)

主要製品の生産量： 1,075 t

売上高： 664百万円

資本金： 6,000万円

従業員数： 43人

延べ床面積： 3,715.03m²

(6) 対象範囲 (認証・登録範囲)

上記 (2) に該当する所在地と (4) に該当する活動内容

Ⅱ. 環境経営方針

環境経営方針

日本包装システム株式会社は、循環型社会の実現と環境負荷の低減を推進します。

1. 当社は環境マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め全員参加で継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法規制およびステークホルダーとの合意事項を遵守するとともに、行政や地域との協力体制を確立します。
3. 当社は、次の事項に対して優先的に取組みます。
 - ① エネルギー使用量・水資源使用量の削減
 - ② 廃棄物削減とリサイクルを目的とした分別回収
4. 当社は文化的生活の向上と環境負荷低減の両立を目指し、安全で効率のよい生産活動を追求します。
5. 社会の一員として環境保全に関する啓蒙・啓発に努めます。

この環境方針は全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009年4月1日
改訂日 2025年4月1日

日本包装システム株式会社

代表取締役社長

池 島 正 英



Ⅲ. 環境経営活動実施体制

代表者(社長)	1. 環境経営方針の策定
池畠 正英	2. 経営資源の準備
	3. 代表者による全体の評価と見直し
	4. 環境経営レポートの承認
	5. 環境目標及び環境経営活動計画の承認
	6. 経営における課題とチャンスの明確化

	人員
役員	2名
管理職	5名
一般	26名
パート・人派	12名
合計	43名

2024年4月現在

EA-21 責任者	1. EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施 3. 環境経営目標及び環境活動計画の策定 4. 環境経営レポートの作成 5. EA-21に関する実績把握と報告 6. EA-21環境経営マニュアルの作成
飯塚 宣人	

	製造部	相川 利明	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
	営業部	小貫 敦	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
	品質管理部	森 克美	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置
	管理部	高橋 正利	1. 環境経営活動計画の実施 2. 問題点の是正処置

EA-21委員会	1. 環境経営目標及び環境経営活動の結果確認 2. EA-21に関する審議
委員長：池畠 正英 飯塚 宣人・小宮 由香利・竹内 恵子 松本 宏志・蒔苗 徹・鈴木 寿晴・岡田 美幸	

EA-21事務局	1. EA-21責任者の補佐業務
小宮 由香利	2. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認
	3. 教育、訓練計画の策定・実施（緊急時対応訓練 等）
	4. 環境文書及び記録の作成、管理
	5. その他EA-21に関する業務

Ⅳ. 環境経営目標

当社の環境目標の設定は、2021～2023年度のデータを合計し、その平均値を基準として2024年度の目標を作成致しました。

「燃料使用量の削減」については本社工場・共同工場扱いにてそれぞれ車輛を区別、工場別に実績管理をしていましたが、2021年度より本社工場一括の管理となり、工場別の数値を合計して算出、表示しています。

「化学物質使用量の削減」については年間使用量が少ない為、定期的に管理状況・保管状況の確認を「薬品保管管理表」にて行っています。

「グリーン購入の推進」については、「自らが生産・販売・提供する製品、及びサービスに関する環境目標」内に統合して継続して活動していきます。

取組項目	2021～2023年度 過去3ヶ年平均実績 値		2024年度	2025年度	2026年度
電気使用量の削減	本 社	CO2換算 2.68kg/万円	1.0%削減	1.1%削減	1.2%削減
	共 同	CO2換算 1.78kg/万円			
燃料使用量の削減 営業車使用燃料 (ガソリン・軽油)		CO2換算 0.206kg/万円	0.5%削減	0.3%削減	0.2%削減
廃棄物の削減 ① (古紙回収)の削減	本 社	一万円あたりの使用量 4.41kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1.0%削減
	共 同	一万円あたりの使用量 5.63kg/万円			
廃棄物の削減 ② (廃プラ)の削減	本 社	一万円あたりの使用量 0.053kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1.0%削減
	共 同	一万円あたりの使用量 0.039kg/万円			
廃棄物の削減 ③ (鉄・ガラス・その 他)の削減	本 社	一万円あたりの使用量 0.009kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1.0%削減
	共 同	一万円あたりの使用量 0.014kg/万円			
水資源使用量の削減	本 社	一万円あたりの使用量 0.006m³/万円	1.0%削減	1.0%削減	1.0%削減
	共 同	一万円あたりの使用量 0.007m³/万円			
自らが生産・販売・ 提供する製品、及び サービスに関する 環境目標	次年度の活動計画にて掲げた施策の実行と継続				
化学物質使用量 の削減	_____		_____	_____	_____

V. 実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ※1. 実績値は、2024年度運用期間(4月～3月)の1年間と、基準とする2021年度から2023年度の3ヶ年平均の数値と比較する。
- ※3. 総量は4月から3月の1年間の合計とする。
- ※4. 単位は、売上金額1万円当たりの使用量とする。
- ※5. 購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数は0.408(2023年度値)。
- ※6. ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.32。
- ※7. 軽油の二酸化炭素排出係数は2.62。

実績 一覧

本社工場	基準値 (過去3年平均)	2024年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	2.68kg/万円	1.86kg/万円	144.00%	○
燃料使用量の削減	0.206kg/万円	0.186kg/万円	110.75%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	4.41kg/万円	3.28kg/万円	134.45%	○
廃棄物(廃プラ)の削減	0.053kg/万円	0.046kg/万円	115.21%	○
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.009kg/万円	0.024kg/万円	37.50%	×
水資源使用量の削減	0.006m ³ /万円	0.011m ³ /万円	54.54%	×

○ 達成 × 未達成

共同工場	基準値 (過去3年平均)	2024年度実績値	達成率	結果
電気使用量の削減	1.78kg/万円	1.12kg/万円	158.92%	○
廃棄物(古紙回収)の削減	5.63kg/万円	5.07kg/万円	111.04%	○
廃棄物(廃プラ)の削減	0.039kg/万円	0.024kg/万円	162.50%	○
廃棄物(鉄・ガラス等)の削減	0.014kg/万円	0.026kg/万円	53.84%	×
水資源使用量の削減	0.007m ³ /万円	0.006m ³ /万円	116.66%	○

主な環境負荷実績(総量)

環境への負荷	2023年度	2024年度(対象年度)
Co2排出量(Kg-Co2)	124,667	120,556
廃棄物排出量(t)	239	238
水使用量(m3)	532	575

電気使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(8月)	◎	継続	両工場共に高い数字で目標達成出来ました。生産活動を継続しながら、左記の取り組みを皆で実行出来た事で達成したと考えます。今後の課題として、夏場の猛暑化に対して弊社なりのエアコン使用対策の検討が必要です。
未使用の電気、電源のOFF	◎	継続	
エアコン温度の設定	○	継続	
トイレ便座の温度設定	○	継続	
空調フィルターの定期清掃	◎	継続	
デマンド監視装置の活用	△	継続	

◎良くできた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

燃料使用量の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(2月)	◎	継続	両工場共に高い数字で目標達成出来ました。コロナ禍後の社会の特徴である、顧客先との打合せ等のオンライン化による、車輛使用の減少が燃料使用量減少の要因の一つであると考えられます。
燃料使用量・走行距離チェック	◎	継続	

廃棄物(古紙回収)の削減

計画(本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(5月)	◎	継続	基準数値比で本社は廃棄量が減少、共同工場は増加となりました。両工場では生産内容がすみ分けされていて、受注量により数値の増減がありますが、本社工場は生産内容が都度変化する傾向の為、注意していく必要があります。
分別廃棄の継続	○	継続	
私物ゴミ持ち帰りの徹底	◎	継続	
不良率の削減	◎	継続	
① 調整ロスの削減			
② ロスの早期発見と対応			

廃棄物(廃プラ)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	廃棄マニフェストは電子化実施。 両工場共に使用量減少を達成出来ました。共同工場の減少要因として、顧客の納品方法変更によりストレッチフィルムの廃棄量が減少しました。
資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底	◎	継続	
ブランクス納入時のプラパレ化依頼	◎	継続	

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

廃棄物(鉄・ガラス等)の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(10月)	◎	継続	木製パレット・木くずの処理は問題なく対応出来ました。 蛍光灯の廃棄管理に関しても適切に管理出来ています。 ブランクス納入時のプラパレ化の浸透で、木製パレットの廃棄量が減少してきています。
廃棄蛍光灯の管理徹底	◎	継続	
木製パレット・木くずの適正処理	◎	継続	

水資源使用量の削減

計画 (本社工場・共同工場 統一計画)	結果	次年度	評価
取り組み施策の発表(12月)	◎	継続	基準数値比で本社は使用量が増加、共同工場は減少となりました。 工場内の定期大掃除、プラパレの水洗い、夏場のコンプレッサー冷却(水掛け)などの要因により、増加となりましたが、社員の節水意識は高いレベルにあります。
節水継続意識向上の継続	◎	継続	
手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める。	○	継続	
本社 成型工場、共同 2階洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更(検討)	△	継続	

環境保全取組実施率の向上

① 管理者・従業員の教育

- ・毎月初日に全社員が集まる全体ミーティングを実施しています。
- ・全体ミーティング内ではエコアクション活動の発表の他に、安全・衛生委員会より労働災害発生状況の発表や、ヒヤリハット発表による危険予測の対応。
また、業務中における事故発生の予防を目的とした取り組み(工場内の見廻りと危険個所の発見、その対応)を発表しました。(7月、1月)



＜全体ミーティングの一例＞



＜安全・衛生委員会の発表の様子＞

- ・アース環境サービス社様による「外部から侵入する昆虫とその対策」の講習を実施。(6月)
- ・協会けんぽ群馬支部様による「健康について」の講習を実施。(10月)



＜アース環境サービス社様による講習の様子＞



＜協会けんぽ群馬支部様による講習様子＞

- ・毎年実施している講習として、アース環境サービス社様の工場内に侵入させない防虫対策や、製品に異物混入してしまうリスクに対してもレクチャーしていただきました。
季節ごとに発生する害虫から季節関係なく発生する害虫まで、さまざまな侵入原因やそのための対策法を教えてもらうことで、社員の防虫意識向上を図る事が出来ます。
 - ・上記、協会けんぽ群馬支部様によるの講習内容は、健康の為にウォーキング推奨や簡単なストレッチ体操を教えていただきました。血流を良くする事が出来て運動不足がちな日頃生活習慣を改善出来る方法でした。
 - ・前年度から実施しはじめました新入社員への教育活動として、エコアクション21とは？からはじまり、エコアクション21とはどういう理念なのか、活動なのか、どういう取り組みなのか、丁寧に説明を行う事で理解を深めてもらいました。
また、昨今の地球温暖化や気象異常などが、この活動への取り組みに関係してくる事を伝える事で、環境問題を身近に感じてもらう必要もあります。
さらに、FSC森林認証やSDGsについても説明を行いました。いずれも環境に関する取り組みや事柄になりますので、併せて効果的に教育を行います。
- ② その他、入口に「アイドリングストップ」の表示をして、当社出入りの業者さんに対して環境保全活動の協力依頼をしています。

その他の環境への取り組み事例



① 本社工場 製函機械1台をオーバーホール



② 共同工場 製函エリアの照明をLED化



③ 共同工場 ブランク黒点検出機 導入



④ 本社工場・共同工場 キュービクル点検

★2024年度に行った環境への効果が見込める取り組み★

- ① 本社工場 製函機械を1台オーバーホール（省電力化・生産効率化）
- ② 共同工場 製函エリアの照明をLED変更工事（省電力化）
- ③ 共同工場 バリ取り部門 ブランク黒点検出機 導入（省電力化・生産効率化）
- ④ 本社工場・共同工場 キュービクル点検（危機管理）

FSC® COC森林認証の取得

「FSC COC森林認証」を取得して7年になり、認証製品の生産も順調に増加しています。日常生活の中でもFSC森林認証マークのある製品を普通に目にする程浸透してきています。管理された森林から生産された木材を使用した紙を使用する事が環境破壊を防ぐという、この活動を継続して行う事の大切さを社員全員で理解、認識して生産活動を行っていきます。

＜弊社FSC認証情報＞

認証登録番号 : SA-COC-006218
 ライセンス番号 : FSC® C140095
 認証発行日 : 2023年3月9日（2018年3月9日に認証取得）
 有効期限 : 2028年3月8日
 詳細情報 : <https://search.fsc.org/ja/certificate/a02f300000glY5fAAG/>



Certificate of Registration

This is to certify that
NIPPON HOUSOU SYSTEM CO., LTD.
 日本包装システム株式会社
 has been certified in accordance with the requirements of the Forest Stewardship Council® (FSC) Chain of Custody (COC) standard and that NIPPON HOUSOU SYSTEM CO., LTD. is
 183 Kamishimamachi, Maebashi-shi, Gunma, 379-2153, JAPAN
 is hereby licensed to use the FSC Logo on and sell as FSC certified all products listed on the attached FSC product schedule as FSC Mix.
 Certificate Registration Code: **SA-COC-006218**
 License Code: **FSC-C140095**
 Issued By: Soil Association Certification Limited
 South Place, Marlborough Street
 Bristol, BS1 2PE
 United Kingdom
 Issue Date: **9 March 2018**
 Valid until the Renewal Date: **8 March 2023**
 Signed on behalf of Soil Association Certification: *Kevin Jones*
 Kevin Jones, Head of Forestry



化学物質使用量の削減

定期的(7月・11月・3月)に保管場所と管理方法の確認を行いました。

Ⅵ. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

当社は、環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施していきます。

環境経営目標 (2025年度)

取組み項目	3ヶ年平均値と単位 (Co2換算)		2024年度	2025年度	2026年度
電気使用量の削減	本社	CO2換算 2.48kg/万円	1.0%削減	1.1%削減	1.2%削減
	共同	CO2換算 1.43kg/万円			
燃料使用量の削減 営業車使用燃料 (ガソリン・軽油)		CO2換算 0.185kg/万円	0.5%削減	0.3%削減	0.2%削減
廃棄物の削減 ① (古紙回収)の削減	本社	一万円あたりの使用量 3.73kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1.0%削減
	共同	一万円あたりの使用量 5.13kg/万円			
廃棄物の削減 ② (廃プラ)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.050kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1.0%削減
	共同	一万円あたりの使用量 0.029kg/万円			
廃棄物の削減 ③ (鉄・ガラス・その他)の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.013kg/万円	0.3%削減	0.6%削減	1.0%削減
	共同	一万円あたりの使用量 0.027kg/万円			
水資源使用量の削減	本社	一万円あたりの使用量 0.011m ³ /万円	1.0%削減	1.0%削減	1.0%削減
	共同	一万円あたりの使用量 0.003m ³ /万円			

※3ヶ年の対象年度は、2022年度～2024年度の数値を合計したものの平均となります。

(1) 電気使用量の削減

- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・エアコンの適正な温度設定
- ・トイレ便座の温度設定(夏季：OFF、冬：ON)
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
(季節ごとに1時間毎に数値を測定)
- ・電気管理業者のサポートによる使用電力削減
- ・電気使用量の削減の取り組み発表(8月)

(2) 燃料使用量の削減

- ・燃料使用量・走行距離チェック(3カ月毎)
- ・燃料使用量削減の取り組み発表(2月)

(3) 廃棄物の削減(古紙回収)

- ・分別廃棄の継続(本社工場・共同工場)
- ・不良率の削減
調整時ロスの削減
ロスの早期発見と対応
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・不良率低減の取り組みを発表(10月)

(4) 廃棄物の削減(廃プラ・鉄・ガラス他)

◎廃プラ／鉄／ガラス他 共通事項

- ・資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底
(リサイクル率向上の為)
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・廃棄物の削減の取り組みの発表(11月)

◎ガラス他

- ・使用済み蛍光灯の廃棄・管理の徹底
- ・ブランク納品時、プラパレでの納入を依頼

(5) 水資源使用量の削減

◎本社工場

- ・節水意識向上の継続
- ・手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める
- ・成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討

◎共同工場

- ・節水意識向上の継続
- ・水資源使用量削減の取り組み発表(12月)

(6) 環境保全取組実施率の向上

- ・毎月1日に全体ミーティングにてEA21の取り組み発表や環境教育等を実施
- ・部門別責任者と担当者の発表、年間スケジュールの発表(4月)
- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を予定(6月)
- ・避難訓練「火災防火訓練」(9月)
- ・施策の成果と反省(3月)

(7) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新製品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割り付けを心掛け、原紙のロスを軽減します。
- ・新製品を生産する際に、環境に配慮した材質、リサイクルが可能な材質の使用を心掛けます。
- ・グリーン購入の推進。

(8) 化学物質使用量の削減

- ・保管と管理の確認(7月・11月・3月)を定期的に行います。

Ⅶ. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りです。
 また、関連法規制の遵守状況確認を毎年2回実施しており、違反はありませんでした。
 地域住民からのクレームもありませんでした。
 同様に関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

主な適用法規	当社の対応	遵守状況
廃棄物処理法 循環型社会形成推進基本法 群馬県環境基本条例 群馬県の生活環境を保全する条例 前橋環境基本条例	廃棄物の削減 廃棄物の適正処置の確保 産業廃棄物保管基準遵守 廃棄物の飛散・流出・地下浸水の防止 産業廃棄物処理委託基準の遵守 産業廃棄物の委託契約書の記載事項の遵守 産業廃棄物管理票の管理義務	遵守確認済
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	廃棄時の引き取り業者への 引渡し料金の支払い	本年度廃棄無し
消防法(危険物関連) 前橋市火災予防条例	少量危険物貯蔵所設置の届出 基準在庫管理	基準在庫以下確認
容器包装リサイクル法	毎年度、その生産量に応じて 再商品化義務量の再商品化	遵守確認済
下水道法	排水基準の厳守	排水基準量以下確認
CSR(社会的責任)調達 (取引先企業3社)	エコアクション21に適用	遵守確認済
騒音規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
振動規制法	特定施設設置届出書の提出	遵守確認済
フロン排出抑制法	該当設備を管理者により定期点検 廃棄時の回収業者への引渡し	実施済 本年度廃棄無し

Ⅷ. 代表者による全体評価と見直しの結果

新型コロナウイルスの影響は薄れ、人の往来が活発になっていると感じます。経済的に良い影響が出ている部分もありますが、止まらない物価高により予想外の現象が表れているところもあります。

想定外としては自然環境の大きな変化から災害に発展するようなケースが増え、目が離せない状況であると感じます。また、各地で発生している戦争やそれによる環境破壊に終息の見通しが立っていないことが大きな不安です。

当社は基準値と比較すると電気・燃料の使用量が抑えられ、削減目標を達成出来ました。しかし水資源使用量については猛暑時のコンプレッサー冷却に使用したため一時的に増加し、また廃棄物関係も継続的ではありませんが多く発生してしまいました。

そんな課題もありますが、長年継続している地道な環境活動や、工場内の隙間対策工事による冷暖房の効率化などは評価できると思います。また、近年の労働日数・時間を削減していく方針によって考え方も変化し、より集中した生産体制を推進する形になっています。

取組むべき方向性

今期も設備投資は予定通り進められ、完全オーバーホールを行った機械や、ブランク検査装置が新たに導入されました。今後はこれらの新たな設備による生産プロセスの合理化や新しい技術への挑戦が求められます。更なるレベルアップを図り要求品質にしっかり応えられる体制構築が目標です。生産技術に裏付けされた「効率化」を進めることが必要だと感じています。

色々と変化する状況の中、都度的確な対応で生産実績・売上実績を上げることが求められますが、社員全体の多能工化や部門間連携によって工程のムリ・ムラ・ムダなどを削減していくことが大切ではないかと感じています。その結果労働時間を削減しつつ、様々な成果を上げていける体制が構築されと考えています。

私たちは気候変動やエネルギーの供給不安なども踏まえ、「防災」や「安全」に強い意識をもって取り組む必要があります。また置かれた状況が厳しくなる中、更に環境経営の質を向上させていく必要性も痛感しております。